

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【福祉／介護過程】

#### 1. 対象（35HR 男子3名、女子16名、計19名）

福祉科の3年生で、将来、福祉関係を志している生徒が多い。生徒の学習への取組は積極的なクラスである。1学期の介護実習で、実際に受け持つ利用者に対する介護過程の展開を実施した。個人での展開は実施したが、チームで一人の利用者の個別支援計画を作成することは実施したことがない。

#### 2. 単元名「生活課題の明確化」（全4時間）

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技術	サービス利用者の生活課題を明確にし、サービス利用者が望む自立した豊かな生活の支援のために目標を設定することについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
思考力、判断力、表現力等	生活課題の分析についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。
学びに向かう力、人間性等	サービス利用者が望む自立した生活を支援するための生活課題と目標設定について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

#### 4. 本時の目標

Hさんの事例について、収集した情報とアセスメントから、Hさんの生活課題を明確にし、生命の安全（健康状態が悪化するような点はないか）、生活の安定（日常生活の自立、継続）、人生の豊かさ（その人らしく生活）の視点、Hさんのニーズから生活課題の優先順位を根拠に基づき考える。

#### 5. 授業展開【**本時**・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

<b>解決したい課題や問い</b>
Hさんのニーズを尊重しつつ、最も優先する生活課題を根拠に基づいて明確にしよう。

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
Hさん（（80歳）・女性・介護老人福祉施設に入所）のフェイスシート・アセスメントシート。	介護過程（○○出版）P33・34 図2「生活課題の優先順位」	介護過程（○○法規）P37・38 「アセスメントの3つの視点」
想定される活動		
具体的な支援方法立案に向けて、Hさんの生活課題について根拠を踏まえて考える。	複数の生活支援課題の優先順位について考える。	Hさんの生活課題を導き出す。

## 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

### ①個人活動（10分）

・「解決したい課題や問い」を考え、ワークシートにまとめる。

- ・下肢筋力の維持・向上を図る必要がある。
- ・自分自身の力で歩けるようになる。
- ・便秘傾向を治す必要がある。等

### ②グループ活動（15分）

個人活動で考えた内容を共有し、考えられる生活課題を挙げる。

「考えるための材料B」を見ながら、課題の優先順位を検討する。

最も解決すべき生活課題について根拠を踏まえて明確にする。

- ・現在は車いすを使用している移動を行っており、このままでは自力での歩行ができなくなってしまうことが考えられるため、下肢筋力の維持・向上を図る必要がある。
- ・Hさんは「お父さんのお墓参りに行きたい」というニーズを持っているため、生活意欲が向上するためにはお墓参りに行く計画を立てる必要がある。
- ・1日の生活の中にメリハリを持たせるために、時間帯に応じた身支度を行う必要がある。

### ③グループ発表（15分）

各グループで挙げた意見を共有し、最も解決すべき生活課題について根拠を踏まえて発表する。

### ④まとめ（10分）

「解決したい課題や問い」について、一人一人がまとめる。

## 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

・Hさんは日常生活動作（ADL）において何事にも意欲が低下しているため、最も解決すべき課題としては生きていく中で何か目標を持つ必要がある。特にお父さん（夫）のお墓参りに行きたいというニーズを持っているため、機能訓練をすることでお墓参りに行くことをモチベーションに身の回りのことを自立して行う必要がある。

・お墓参りに行くためには、特に歩行に関する機能面の回復が最重要課題となる。歩行に関する不安も抱えているため、足を上げて踵から着地する訓練を毎日行う。最初は歩行器や四点杖を使いながら介助者が隣で支えて歩行訓練を行う。

・お墓参りに行く際には衣服の選択が必要となるため、毎朝自分で衣服を選択し自立を促す。